

連載 声なき声を聴くために
胎児心拍数モニタリング判読塾

宮崎大学医学部 産婦人科 教授 鮫島 浩



1981年鹿児島大学医学部卒業。米国留学を経て、1995年まで、鹿児島市立病院。それ以降現在まで、宮崎大学。

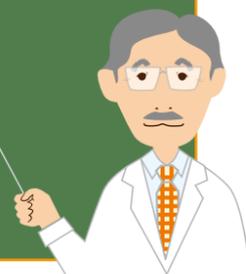
第10回

一過性頻脈に関連する病態

「声なき声」を聴くには

今回は、先にポイントをまとめておきましょう。

- 1 ノンリアクティブ NST では、睡眠サイクル、未熟性、先天異常、薬剤、低酸素症などの影響が考えられます。
- 2 正常胎児が分娩中に一過性頻脈が出現しなくなった場合、約50%にアシドーシス(pH7.2未満)が関与する危険性があります。



一過性頻脈が出現しないときには (図1)

一過性頻脈は多くの因子によって影響を受けます。その因子を表1に示します。

元来、健康な胎児であっても、胎児の睡眠-活動サイクルで一過性頻脈が出現しないことがあります。サイクルは40~60分周期ですので、観察時間を延長するか、外部から刺激することで、一過性頻脈が起こる状態に移行させることが可能です。

32週未満では胎児の未熟性のために一過性頻脈が出現しないこともあります。

中枢神経、自律神経、心循環系に影響を及ぼす薬剤で

も一過性頻脈を抑制することがあります。

同様に、中枢神経、自律神経、心循環系に奇形や代謝異常などの先天性異常が心拍数調節機能に影響を及ぼす場合には、一過性頻脈が出現しない場合があります。

しかし、臨床上也っとも問題となるのは胎児の酸素化が悪化し、アシドーシスに傾いた状態です。これまで一過性頻脈が出現していたにもかかわらず、何らかの原因で一過性頻脈が出現しなくなったり、出現してもこれまでの典型的な一過性頻脈ではなくなったりした場合には、胎児の酸素化が悪化している危険性を考慮します。

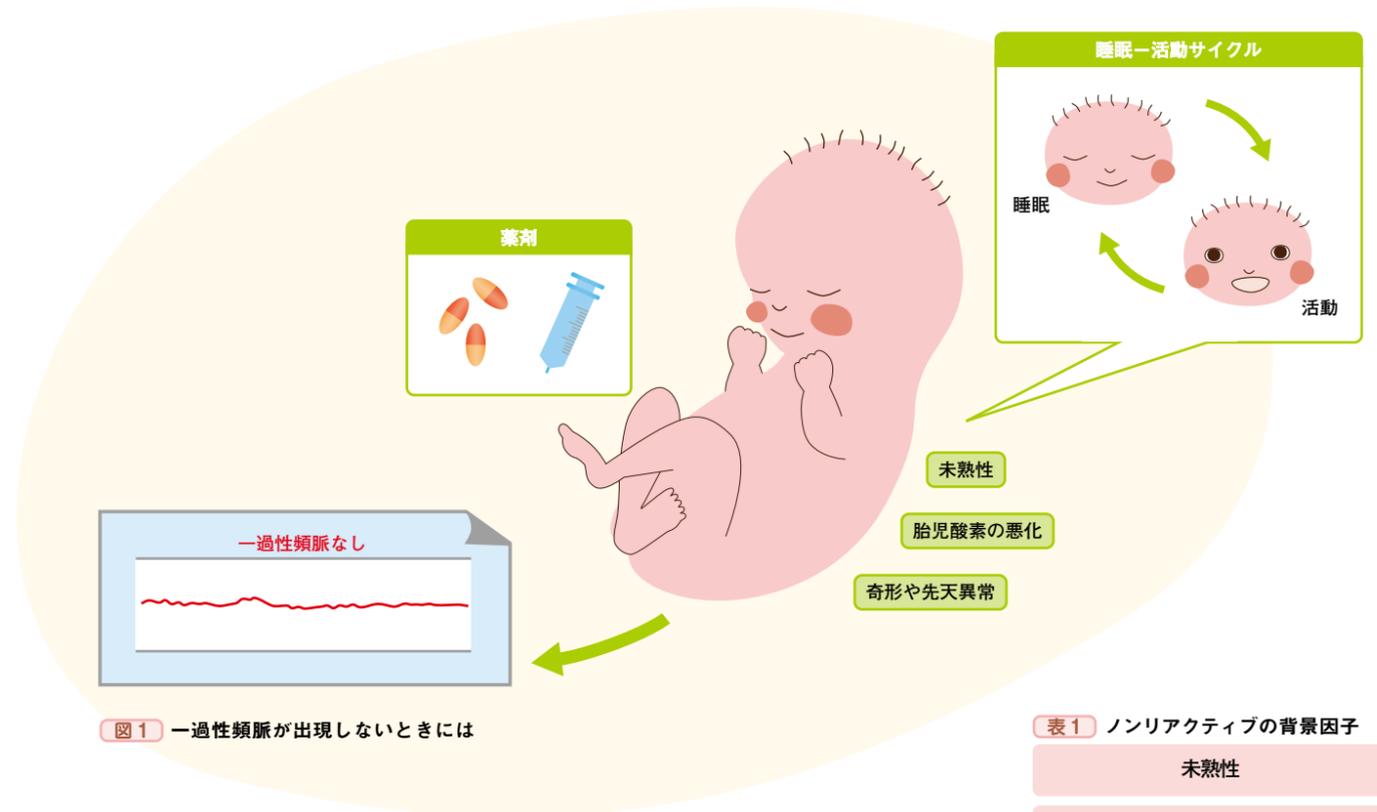


図1 一過性頻脈が出現しないときには

表1 ノンリアクティブの背景因子

未熟性
睡眠-覚醒サイクル
奇形や先天異常
心拍数調節機構に影響を及ぼす薬剤
胎児酸素化の悪化